

施策評価（令和4年度）

施策評価調書

戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略			
施策3-7 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり			
幹事部局名	農林水産部	担当課名	農山村振興課
評価者	農林水産部長	評価確定日	令和4年8月29日

1 施策のねらい（施策の目的）

優れた景観を有する里地里山が県民共有の財産として後世に引き継がれるよう、地域資源を最大限に活用しながら、中山間地域の農業と農山漁村の維持に取り組みます。
また、災害から県民の生命と財産を守るため、地域の協働力を活用した保全管理や防災・減災力の強化を図ります。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①								施策の方向性(1)	
年度	現状値(H28)	H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考		
中山間地域資源活用プラン策定地域数(累積)(地域)	目標			45	50	55	60		
	実績	37	45	49	53	55	57		
	達成率			108.9%	106.0%	100.0%	95.0%		
出典:県農山村振興課「元気な中山間農業応援事業実績」		指標の判定		a	a	a	b		
分析(推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-		
		東北	-	-	-	-	-	-	
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、新たに2地域で活用プランが作成され、累計57地域でプランが作成された。 プランが策定された地域では、気候等の地域の特色や、農産物、伝統文化等の地域資源を活かして、農業生産の拡大に向けた取組が強化されている。 									

代表指標②								施策の方向性(2)(3)	
年度	現状値(H28)	H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考		
水と緑の森づくり推進事業参加者数(累積)(百人)	目標			211	423	635	847	H30年度から「水と緑の森づくり税事業第3期5箇年計画」に基づく取組を開始	
	実績	-	-	223	457	585	803		
	達成率			105.7%	108.0%	92.1%	94.8%		
出典:県森林整備課「秋田県水と緑の森づくり推進事業実績」		指標の判定		a	a	b	b		
分析(推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-		
		東北	-	-	-	-	-	-	
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の参加者数は218百人(累計803百人)であり、達成率は94.8%となった。 県民参加の森づくりを目指し、森林ボランティア団体等の活動や、次代を担う児童・生徒を対象とした森林環境教育活動への支援等、県民が森林・林業に対する理解を深めるための取組等を行っている。令和3年度については、単年度の目標を上回る参加者数となったものの、2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、多くの取組が中止や規模を縮小しての実施であったことから5か年の累積の実績が目標に届かなかった。 									

※ 指標の判定基準

「a」：達成率 \geq 100% 「b」：100% $>$ 達成率 \geq 90% 「c」：90% $>$ 達成率 \geq 80%

「d」：80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」：現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

							施策の方向性(2)	
成果・業績指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R元 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
新たに企業や大学等と連携し里地里山の保全活動等に取り組む地域数(累積)(地域)	目標			8	12	14	16	
	実績	0	4	5	11	18	20	
出典:県農山村振興課「里地里山を守り継ぐプロジェクト事業実績」	達成率			62.5%	91.7%	128.6%	125.0%	
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	
		東北	-	-	-	-	-	
	<ul style="list-style-type: none"> 企業や大学等(サポーター)と認定地域をマッチングし、農地の維持・保全につながる協働活動を実施できるよう、認定地域に対してサポーターの情報提供及び活動経費の助成を行った。 令和3年度の実績地域数については、「守りたい秋田の里地里山50」に認定された2地域において、新たに地域と企業・大学等のサポーターによる交流活動や保全活動等が行われたことで、目標を達成している。 							

							施策の方向性(2)(3)	
成果・業績指標②	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R元 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
水と緑の森づくり事業による森林整備面積(累積)(ha)	目標			900	1,800	2,700	3,600	H30年度より「水と緑の森づくり税事業第3期5箇年計画」に基づく取組を開始
	実績	-	-	859	1,752	2,623	3,452	
出典:県森林整備課「秋田県水と緑の森づくり事業実績」	達成率			95.4%	97.3%	97.1%	95.9%	
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	
		東北	-	-	-	-	-	
	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の整備面積は829ha(累積3,452ha)であり、達成率は95.9%となった。 生育の思わしくないスギ人工林について、広葉樹と入り交じった混交林に誘導し、生物多様性など公益的機能がより発揮できる森づくりに取り組むとともに、松くい虫被害やナラ枯れ被害を受けた枯損木等の伐採による景観対策、放牧跡地等の広葉樹林への再生、クマ等の野生動物の出没抑制のための緩衝帯等の整備などを行った。 							

							施策の方向性(4)	
成果・業績指標③	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R元 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
ため池整備により解消される被害想定面積(累積)(ha)	目標			39,550	39,800	40,050	40,300	
	実績	39,347	39,413	39,538	39,697	39,772	40,318	
出典:県農地整備課「事業実績」	達成率			100.0%	99.7%	99.3%	100.0%	
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	
		東北	-	-	-	-	-	
	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な事業推進により、40,318haの被害想定面積を解消し、令和3年度の目標を達成した。 強首地区ほか3箇所において整備が完了し、新たに546haの被害想定面積が解消された。 							

							施策の方向性(4)	
成果・業績指標④	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R元 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	備考
基幹的農業水利施設の整備箇所数(累積)(箇所)	目標			128	138	148	158	複数地区をまとめて採択した場合は、それぞれの地区数をカウント
	実績	108	121	128	141	153	162	
出典:県農地整備課「事業実績」	達成率			100.0%	102.2%	103.4%	102.5%	
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-	-	-	
		東北	-	-	-	-	-	
	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な事業推進により、162箇所の基幹的農業水利施設を整備し、令和3年度の目標を達成した。 稲川2期地区ほか4地区(9箇所)で整備が完了したほか、24地区で農業水利施設の補修・更新を実施。 							

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

（1）多様な資源を生かした地域ビジネスの展開【農山村振興課】

	指標	代表①
<ul style="list-style-type: none"> 市町村担当者等を対象とした各種会議や個別の巡回指導を通じて、プラン策定による補助事業等のメリットについて説明を行い、プラン策定へ誘導した。 地域資源を生かした地域の活性化に意欲的な地域では、プラン策定への理解が進み、大館市（1地域）、仙北市（1地域）で、新たなプランが策定された。 新たにプランが策定された地域では、ニンニク生産のための基盤整備やアスパラガスの防除機導入等により、収益性を確保する取組が進んでいる。 		

（2）里地里山の保全管理と鳥獣被害対策の強化

【農林政策課、農山村振興課、水田総合利用課、農地整備課、森林整備課】

	指標	代表②、成果①②
<ul style="list-style-type: none"> 農地中間管理機構を通じて、中山間地域の条件不利地域の農地を借受けし、農地の継承に取り組む経営体に集積した（支援対象農地：79ha<△57ha>）。 秋田県の農山村地域の魅力を発信するため、「守りたい秋田の里地里山50」認定地域を紹介する「守りたい秋田の里地里山50カード」を製作し、実際に地域を訪問してもらう機会を創出した（新規カード製作1地域）。 ツキノワグマやイノシシ等の出没抑制と農作物の被害防止を図るため、市町村等による追い上げ、捕獲活動、緩衝帯の設置等による被害防止対策への支援を行った（10市町<+2市町>）。 売電収入による施設管理者の運営安定化を図るため、由利本荘市上市地区ほか2地区において、農業水利施設を活用した小水力発電の整備を進めた（令和3年度末の稼働施設数5か所）。 生育の思わしくないスギ人工林等を、公益的機能の高い広葉樹との混交林へ誘導する誘導伐等を実施した（整備面積75ha<+20ha>）。 森づくり活動や森林環境教育等の分野では、森林ボランティア団体や児童・生徒をはじめとした県民が、森林ボランティア活動支援事業や森林環境学習活動支援事業等に参加し、森林・林業への理解を深めた（令和3年度実績21,835人<+9,077人>）。 藪化した森林において、クマの出没抑制や森林環境の保全及び景観の向上を図るため、新たに市町村等が行う緩衝帯等の整備費に対して助成を行った（整備面積171ha<+17ha>）。 		

<新型コロナウイルス感染症の影響>

<ul style="list-style-type: none"> 里地里山の魅力等をPRする首都圏等プロモーション活動（東京）を予定していたが、感染拡大防止の観点から中止となった。県内でのPR活動は、感染予防対策を行った上で、県種苗交換会会場等において実施した。 ツキノワグマやイノシシ等による被害対策の研修等を計画していたが、感染拡大防止の観点から中止した。 市町村や森林ボランティア団体等が計画していた森づくり活動等116件のうち、感染拡大防止の観点から14件が中止され、11件が規模を縮小して実施した。 		
---	--	--

（3）森林の多面的機能の高度発揮【林業木材産業課、森林整備課】

	指標	代表②、成果②
<ul style="list-style-type: none"> 路網整備や高性能林業機械等の導入を促進し、間伐等の森林整備を進めた（間伐等森林整備面積速報値6,350ha<+301ha>）。 生育の思わしくないスギ人工林等を、公益的機能の高い広葉樹との混交林へ誘導する誘導伐等を実施した（整備面積75ha<+20ha>）。 スキー場跡地などに広葉樹を植栽し、森林の再生を図り、森林環境や公益性を重視した森づくりを実施した（整備面積13ha<△2ha>）。 松くい虫対策として、駆除や薬剤散布、樹幹注入を実施し、被害を低位に抑えているが、夏場の高温の影響で被害量は若干増加した（被害量：7,812m³<+647m³>）。 ナラ枯れ対策として、駆除や樹幹注入を実施し、被害の抑制を図った（被害量：11,320m³<△4,813m³>）。 		

(4) 地域を守る防災・減災対策と施設の保安全管理の強化【農地整備課、水産漁港課、森林整備課】	指標	成果③④
<ul style="list-style-type: none"> 岡本地区ほか31地区<+2地区>において、堤体の補強工事等を実施し、ため池の決壊等の未然防止を図った。 深堀地区ほか28地区<+4地区>において施設の補修・更新を行い、農業水利施設の長寿命化や維持・管理コストの低減を図った。 漁港海岸の背後地を、高潮・津波・波浪等による被害から守るため、護岸改良工事等を実施した（5地区<+3地区>）。 山地に起因する災害等を予防するため、治山工事や保安林の森林整備等を実施した（86か所<+8か所>）。 		

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「中山間地域資源活用プラン策定地域数」、②「水と緑の森づくり推進事業参加者数」どちらも「b」判定であり、定量的評価は「B」。 ■ 代表指標及び成果・業績指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

● 定量的評価：代表指標の達成状況から判定する。

「A」：代表指標が全て「a」、「B」：代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」：代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」：代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」：代表指標が全て「e」、「N」：代表指標に「n」を含む

● 定性的評価：成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文	豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが生まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。					
満足度	調査年度	R元 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度	肯定的意見	8.7%	11.1%	9.1%	9.3%	+0.2
	十分 (5点)	1.1%	1.9%	1.2%	1.1%	△0.1
	おおむね十分 (4点)	7.6%	9.2%	7.9%	8.2%	+0.3
	ふつう (3点)	35.6%	38.8%	37.3%	35.8%	△1.5
	否定的意見	28.0%	27.2%	30.6%	30.6%	+0.0
	やや不十分 (2点)	17.7%	16.9%	19.9%	18.7%	△1.2
	不十分 (1点)	10.3%	10.3%	10.7%	11.9%	+1.2
	わからない・無回答	27.8%	23.0%	23.1%	24.3%	+1.2
平均点	2.60	2.68	2.60	2.57	△0.03	
調査結果の認識、取組に関する意見等						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 5段階評価の満足度の平均点は「2.57」で、「ふつう」の3より0.43低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.3%、「ふつう」は35.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は30.6%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は45.1%であった。 ○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の後継者問題などに対して、もっと農山漁村の魅力を伝えていく情報を発信してほしい。（女性/40歳代/秋田地域） ・ 農林業に魅力がなく村に後継者がいなくなり、老人社会が進んでいる。早急に改善を要する。（男性/70歳以上/由利地域） ・ 農地や森林を守る必要があると同時に、集落の拠点化を図り、ライフライン維持に要するコストを下げなければ、広大な秋田県で持続可能な生活環境維持は困難です。（男性/50歳代/山本地域） 						

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中山間地域の特性を生かした農作物、特産品の生産・販売拡大が進んできており、農産物販売額の増加など一定の成果は出てきている。しかし、販売額は平地の約7割であり、依然として格差は大きい。 ● 農家の後継者問題などに対して、もっと農山漁村の魅力を伝えていく情報を発信してほしい。(県民意識調査より) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中山間地域における地域資源の掘り起こしや活用に応じたっては、生産者と加工や飲食、観光など、多様な分野と連携を図り、地域特産物のブランド化や、農業と観光等の他分野との組み合わせによる新たな農村ビジネスを創出する取組を支援し、所得向上と雇用の確保を図る。 ● 田園回帰の流れが全国的に拡大する中で、新たな兼業スタイル「半農半X」の推進や、地域資源を生かした農山漁村の魅力が伝わる取組等について、引き続き県Webサイトやグリーン・ツーリズム総合情報サイト「美の国秋田・桃源郷をゆく」で紹介していくとともに、SNSや各種メディアを活用した情報発信に取り組む。
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水と緑の森づくり推進事業について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、主に市町村が実施する事業が中止・規模縮小となり、参加者数が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き森づくり税を活用した事業の普及啓発により事業の利用者と参加者の増加に努めるとともに、事業実施主体に対しては野外活動における感染防止措置の正しい実施方法を伝えていく。また、研修会等はオンラインで配信するなど、より参加しやすい形での開催を進める。
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 依然として、生育が思わしくないスギ林や、松くい虫・ナラ枯れ被害が発生するなど、森林の持つ公益的な機能が十分発揮されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水と緑の森づくり税事業第3期5箇年計画(平成30～令和4年度)に基づき、針広混交林化事業やマツ林・ナラ林等景観向上事業を実施し、健全な森林を守り育てることで森林の公益的機能の向上を図る。
(4)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化や耐震性への対応など、整備を必要とするため池が多く、その全てに早急に対応することは困難となっている。 ○ 標準耐用年数を超過している農業水利施設が全体の約4割を占めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 効果的な管理体制の構築や、効率的な整備を行うとともに、防災重点ため池でのハザードマップを活用した避難訓練や水位計の設置などのソフト対策を実施する。 ○ 基幹的な農業水利施設については県で定める方針に基づき計画的な対策を実施するとともに、小規模な水利施設について、土地改良区等の施設管理者が自ら更新等の対策を行う団体営事業により長寿命化対策の加速化を図る。

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

6 政策評価委員会の意見

自己評価の「B」をもって妥当とする。